

平成29年8月7日開催

厚生常任委員会資料【所管事務調査】

上越市歯科保健計画について

上越市歯科保健計画の見直しについて 1～4

所管委員会	厚生常任委員会
提出課	健康づくり推進課

上越市歯科保健計画の見直しについて

1 計画の概要

【目的】

市民が主体的に歯科疾患の発症予防に向けた取組を実践し、口腔機能を保つことにより、生活の質を維持・向上させる。

【計画の位置付け】

上越市健康増進計画における歯科の領域別計画として位置付け、「上越市保健事業実施計画（データヘルス計画）」「上越市介護保険事業計画・上越市高齢者福祉計画」等の関係する各計画との整合性を図っている。

【計画の内容】

むし歯や歯周病など歯科疾患の発症予防と歯の喪失及び口腔機能の低下を予防することが歯と口腔の健康における重要な対策と考え、ライフステージごとの目標と対策を設定している。

【計画期間】

平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間を計画期間とし、5 年を目途に計画の見直しを行うこととしているため、平成 29 年度において、中間評価を実施し見直しを行う。

2 これまでの取組

各歯科健診や保健指導、健康教育等の機会を通じ、生涯を通じた歯科疾患予防対策を講じている。

【取組の内容】

(1) 乳幼児期、学童・思春期

- ・発育・発達等に合わせた生活、食事、噛むことに関する健康教育
- ・定期的な歯科健診受診の勧奨とフッ化物歯面塗布、フッ化物洗口の必要性を啓発
- ・幼児歯科健診時における歯科衛生士による歯磨き指導と個別指導
- ・保育園から小・中学校においてむし歯及び歯周病予防、適切な歯磨きについて指導
- ・治療が必要な子どもに対する受診勧奨及び生活指導
- ・フッ化物洗口の未実施園に対し、県や園歯科医と連携を図り啓発

(2) 成人期、高齢期

- ・成人歯科健診と歯科衛生士による歯磨き指導及び、治療が必要な人に対する受診勧奨
- ・特定健診や健診結果説明会、地域の健康講座等において、定期的な健診や専門的なケアの必要性、歯周病と生活習慣病の関連について指導
- ・高齢者の介護予防教室や地域サロン事業等における歯科衛生士による口腔ケアの指導

3 上越市歯科保健計画策定委員会の評価について

(1) 委員構成

- ・歯科医療団体、歯科関係団体、公募市民、関係行政機関から 10 人

(2) 第1回上越市歯科保健計画策定委員会の内容（平成29年7月6日開催）

①上越市歯科保健計画の中間評価について

	目標 (指標の目安)	評価指標	基準値 (H23年度)	目標値 (H34年度)	現状値 (H28年度)	中間評価
乳幼児期	むし歯のない児の増加	むし歯のない3歳児	84.3%	90%	89.8%	○
学童期	むし歯や歯肉に炎症のある人の減少	12歳児（中学1年）でむし歯のない人	76.5%	80%	85.5%	○
		中学生：歯肉に炎症所見のある人	17.9%	12%	19.8%	×
成人期	むし歯や歯肉に炎症のある人の減少	20代後半における歯肉に炎症所見を有する人	8.2%	現状維持	20.5%	×
		40代後半における歯肉に炎症所見を有する人	51.1%	40%	43%	△
		60代前半における歯肉に炎症所見を有する人	53.8%	45%	53.8%	△
		40代後半で未処置歯のある人	37.0%	25%	37.2%	×
		60代前半で未処置歯のある人	44.2%	35%	32.5%	○
	喪失歯のある人の減少	40代後半で喪失歯のない人	65.2%	75%	61.6%	×
		60代前半で24本以上の自分の歯を有する人	84.6%	現状維持	82.1%	×
	歯科健診を受診した者の増加	過去1年間に歯科健診を受診した者	14.5%	50%以上	26.1%	△
高齢期	喪失歯のある人の減少	70代前半で24本以上自分の歯を有する人	44.7%	50%	46.9%	△

○：達成 △：改善または維持 ×：悪化

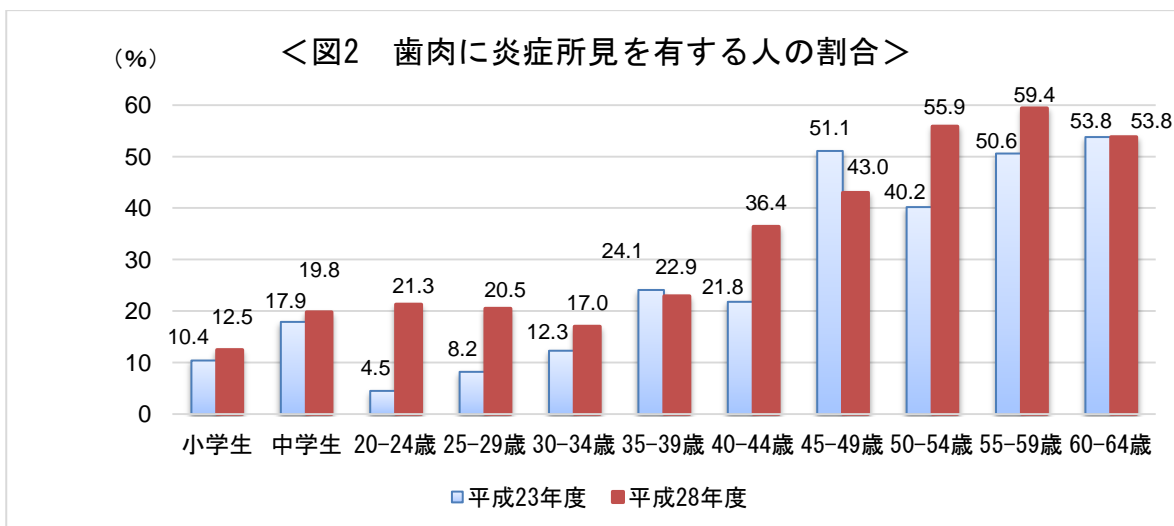
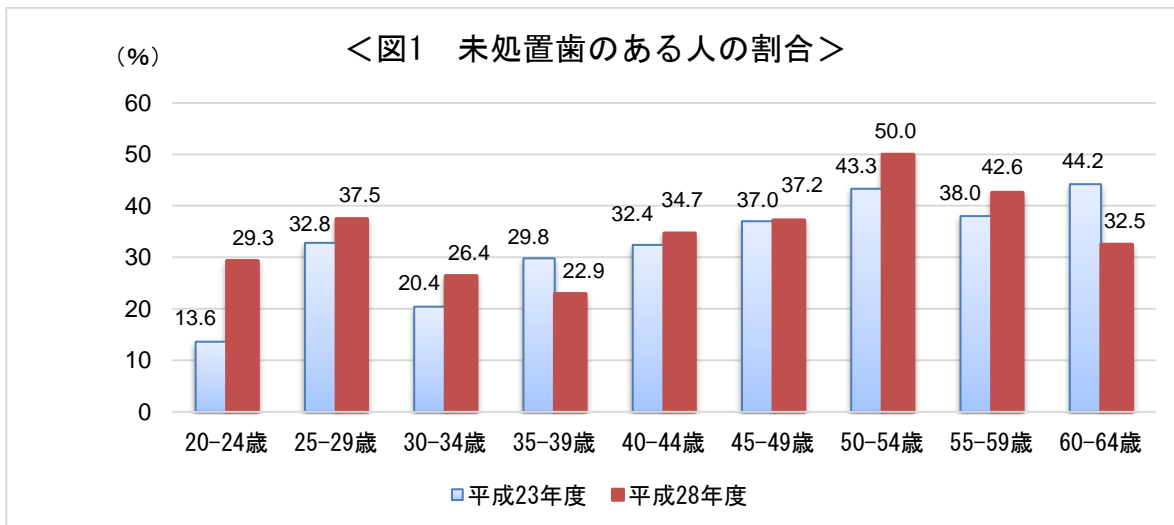
②歯科保健の現状と課題について

【現状】

- ・乳幼児期、学童・思春期のむし歯有病率は減少傾向であるが、成人期においては未処置歯のある人が増加している。（図1）
- ・各ライフステージにおいて歯肉に炎症所見を有する人が増加しており、計画策定時との比較では、学童・思春期は横ばい又は増加傾向、20代は2倍以上の増加が見られている。（図2）
- ・喪失歯に関しては、20代前半を除いて横ばい又は減少傾向にある。
- ・過去1年間に歯科健診を受診した人は14.5%から26.1%に増加しているものの、評価項目の目標値である50%の達成は難しい。

【課題】

- ・成人期の未処置歯や各ライフステージにおいて歯肉炎有病者が増加しているため、定期的な歯科健診の受診に結びつける必要がある。
- ・むし歯及び歯周病、喪失歯予防のための日常的な口腔ケアを実践する必要がある。



4 今後の検討事項

ライフステージごとの課題に対しての取組や目標値の設定について検討する。

- (1) 乳幼児期からの口腔ケアの推進
- (2) 成人歯科健診の受診率向上に向けての取組
- (3) 歯科健診及び唾液潜血検査 (※1) 実施者への事後指導
- (4) 高齢者の口腔機能の維持に向けての取組

※1 唾液又は洗口吐出液中におけるヘモグロビン（血色素）の検出検査で、歯肉炎有無の指標の一つとなる。

5 スケジュール

月 日	会 議 等	内 容
平成 29 年 7 月 6 日	第 1 回上越市歯科保健計画策 定委員会	歯科保健の現状について分析結果と課 題について協議
平成 29 年 8 月 7 日	所管事務調査	
平成 29 年 9 月 28 日	第 2 回上越市歯科保健計画策 定委員会	今後の取組の方向性、ライフステージご との具体的な取組や目標値の見直しに ついて協議
平成 29 年 10 月 19 日	第 3 回上越市歯科保健計画策 定委員会	第 2 回の意見を踏まえた見直し案につい て協議
平成 29 年 12 月	所管事務調査 パブリックコメント	
平成 30 年 1 月	市民説明会	
平成 30 年 2 月	第 4 回上越市歯科保健計画策 定委員会	パブリックコメントを踏まえた見直し 案の協議
平成 30 年 3 月	計画策定	